

〔ふるさとの宝No.2〕

奥湯谷の観音堂

この観音堂は、奥湯谷金倉弘美さん宅前の川向こうに安座されている。(金倉とは鉄倉庫を意味する屋号)

この地は、櫻井家五代の源兵衛利吉が享保十五年(一七三〇)頃から七年間たたらを吹き、その後、約四十年を休み、明和六年(一七六九)から約八年間、再びたたらを創業した場所である。(この地は一山超えると奥内谷のたたら場にながっていた)

たたら製鉄のためには多量の木炭を必要としたため、付近の山林の多くが伐採され、牛馬を育てる牧場として利用できた。当時一年間のたたら操業の為には、樹齢三十年以上の山を百五十町歩必要とした。

明和八年(一七七二)頃、全国的に牛馬の悪い疫病が大流行し、当然奥湯谷においても相当数の牛馬がその病にたおれ、又事故死した数も相当数あったと伝えられている。

このため源兵衛利吉が発願し、馬頭観音様を安置して牛馬の安全と吉祥を祈願したのがこのお堂であり、安永五年丙申(一七七六)九月二十五日に建立したものである。

近年の御供養は、金倉家が春秋の彼岸やお盆に清掃してお

供えをあげ、丁寧に御供養されている。

